

授業科目 解剖学

【担当教員名】 鈴木 了	対象学年	1	対象学科	臨床	
	開講時期	前期	必修選択	必修	
	単位数	3	時間数	45	
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○			
【概要・一般目標：G10】 人体の基本的構造を肉眼的レベルから顕微鏡レベル（特に光学顕微鏡レベル）で理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 解剖学（肉眼解剖学、顕微鏡解剖学、発生学）とは何かを説明する。 2. 組織を構成する細胞の名称とその簡単な機能について説明する。 3. 人体の各系の臓器・器官について、肉眼的な配置、名称を説明する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	解剖学序論（肉眼解剖学、顕微鏡解剖学、発生学について概説）			1	講義
2-4	細胞・組織の基本構造			1	講義
5-6	骨格系の解剖			2,3	講義
7-8	筋系の解剖			2,3	講義
9-10	消化器系、吸器系の解剖			2,3	講義
11-12	脈管系の解剖			2,3	講義
13-15	泌尿生殖器系、内分泌系の解剖			2,3	講義
16-17	神経系（末梢神経）の解剖			2,3	講義
18	神経系（感覚器）系の解剖			2,3	講義
19-20	神経系（中枢神経）の解剖			2,3	講義
21-23	発生学			1-3	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		入門人体解剖学 改訂第4版	藤田恒夫	南江堂	1999・5,000円＋税
参考書		組織学総論－細胞・組織の基礎から病態の理解へ－	穂田真澄	東京農工大学出版会	2010・2,000円＋税
		ラングマン人体発生学	Thomas W. Sadler、安田 峯生 訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2006・8,820円
		解剖学アトラス	V. W. Kahle、H. Leonhardt、越智淳三 訳	文光堂	1990・10,500円
その他の資料		プリントの配布			
【評価方法】 定期試験、小テスト、出席等を総合的に評価		【履修上の留意点】 講義は進行状況等により内容が前後する事があります。 「生体」を理解する上で解剖学（構造）と生理学（機能）は基礎となるので、双方の教科書を常に脇に置きながら履修し、相互連携して理解を図り、また発生学を通じて身体の構造、成り立ちを総合的に理解することを目的とします。 そのため短期間で広範囲を勉強します。欠席をせず、必ず予習、復習することが重要です。 また参考書（発生学、解剖学）は非常に高価です。無理に購入せず、図書館等を有効に活用してください。			